

+

口腔インプラント

近年、インプラント治療を選ばれる患者さんが増えてきました。その理由は大きく分けて2つ、1つは「噛み心地の良さ」、もう1つは「自然な見た目」です。あごの骨に金属（インプラント体）を埋め込んで土台を作り、人工の歯を取り付けることで、しっかりした噛みごたえと入れ心地で自分の歯のような感覚も取り戻せます。今回は、このようなインプラント治療についてご紹介します。

+

インプラント治療とは？

インプラント治療とは、歯を失ってしまった場合に、あごの骨に穴を開けて人工の歯根（チタン製）を埋め込み、骨と結合したら、その上に人工の歯（歯冠・上部構造）を取り付けて、噛み合わせを回復する治療法です。従来の入れ歯やブリッジに比べて、よりしっかりと噛み心地が得られるだけでなく、両隣の健康な歯を削る必要がないため、残っている歯を大切にできるメリットがあります。デメリットとしては、手術を行うために身体に負担がある点、また、ごく一部の患者さんを除き、治療は保険適応外の自由診療であるため、治療費が高額となる点が挙げられます。

徳島大学病院では、他の国立大学病院に比べて、比較的早い時期からインプラント治療を導入していたこともあって、インプラント治療で来院する患者さんも人口の割には多いようです。



インプラント治療の流れ

1 手術前の準備

検査

口腔内のチェックを行うとともに、一般の手術と同様に、血液検査やレントゲン検査、CTなど患者さんの症状に応じて必要な検査を行います。

前処置

歯磨き指導や、むし歯や歯周病、噛み合わせの治療を行うなど、口腔の状態を整えます。

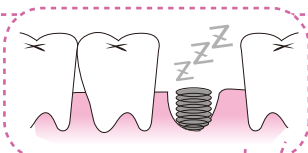
2 手術 [1回目]

人工の歯根の埋入

手術によって、あごの骨に歯根に相当する金属（インプラント体）を埋入します。

治療期間 (3ヶ月～4ヶ月)

インプラント体の周囲の骨が新しく作られるまで、安静に治療する期間を設けます。



知ってほしい、インプラント治療のメリット・デメリット

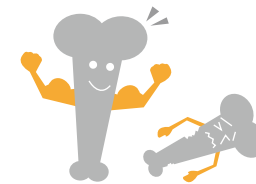


説明は、
徳島大学病院 歯科（そしゃく科）
市川哲雄（いちかわ てつお）教授

+

インプラント治療を行う前に

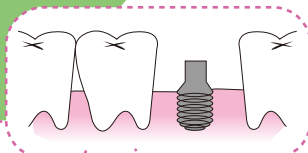
インプラント治療は手術を伴うため、出血、手術後の腫れや細菌の感染などのリスクがあることを十分に理解した上で治療を選択してください。手術後の適切なメンテナンスも重要です。人工の歯は、取り付けることは比較的簡単ですが、あくまでもその人の骨が土台となります。日本人は欧米人と比べて比較的あごの骨が小さいですし、高齢の方は若い方に比べてどうしても骨が薄くなります。また、現在はインプラントに適した口腔状態でも、将来骨が弱くなるような可能性があります。インプラント治療のメリット・デメリットを十分理解した上で、ご自身の価値観にあった治療法を選択してください。



口腔の状態にもよりますが、治療を終えるまでには早くとも約半年はかかります。また、特別な場合は、短期間で人工歯の取り付けることができる特別な即時インプラントという治療もあります。

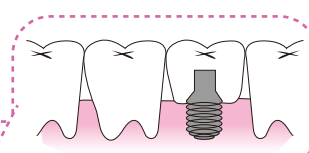
3 手術 [2回目]

インプラント体が骨と強固に結合したら、歯肉を切開して、露出させたインプラント体の上面にあるネジ穴に、支台となるパーツ（アバットメント）を連結します。



4 人工歯の装着

人工の歯を作製するため、歯並びの型取りや噛み合わせの記録を取ります。まずは、プラスチック製の仮歯を装着して噛み慣らしてから、金属やセラミックのようなしっかりした材質で歯冠を作って、装着し直します。



5 メンテナンス

インプラントを長持ちさせるためには適切な手入れと定期的な検診が不可欠です。歯科医師の指導をよく守り、インプラントを良い状態に保ちましょう。